各位　　平成18年11月24日

会社名　株式会社デジタルアドベンチャー
代表者名　代表取締役社長　蛭田　達朗
（コード番号：4772　大証ヘラクレス市場）
問合せ先　管理本部長　　矢島　重比古
（TEL　03－5772－7291）

平成１９年３月期中間の業績見込みと前年同期実績との差異について

当社は、平成19年3月期の個別業績及び連結業績の見通しについての公表はおこなっておりませが、平成19年3月期中間（平成18年4月1日～平成18年9月30日）の個別業績、連結業績において前年同期実績と比較して著しく変動することになりましたので、お知らせいたします。

記

1.. 平成19年3月期中間　連結業績（平成18年4月1日～平成18年9月30日）

（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	中間純利益
平成18年3月期中間（A）	1,026	56	△1,673
平成19年3月期中間（B）	1,797	△260	△2,892
増減（B－A）	771	△316	△1,219
増減率	75.2	－	－

（注）百万円未満は切り捨て。△はマイナス

2. 平成19年3月期中間　個別業績（平成18年4月1日～平成18年9月30日）

（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	中間純利益
平成18年3月期中間（A）	978	51	26
平成19年3月期中間（B）	840	△241	△4,428
増減（B－A）	△138	△292	△4,454
増減率	△14.1	－	－

（注）百万円未満は切り捨て。△はマイナス

3.差異が生じた理由

連結業績については、子会社の増加により売上高は増加したものの、単体の大幅減益により経常利益が大幅な減益となりました。
また、単体の多額な特別損失の計上により当中間純利益も大幅な減益となりました。

個別業績については、既存サイトの会員数の減少の中、新規のサイトの立上げが下期になったこと及び、前年度好調に推移した韓流コンテンツの販売が下期に集中したことにより、売上高は大幅に減少し、またハリウッド映画及び韓流ドラマをパソコンへ映像配信する事業をスタートさせましたが、当初計画を大幅に下回る結果となりました。

経費面におきましては、ますます複雑で高度になる顧客のニーズにすばやくこたえるべく、システムの内製化を推進するとともに、コミュニティーチームを立ち上げる等将来のための先行投資を積極的に行ってまいりました。

売上の減少と先行投資の影響により大幅な経常利益の減少となりました。
中間純利益については、前年度の積極的な買収により取得した会社の当初計画と実績の大幅な乖離により子会社株式及び投資有価証券に対する評価損及び子会社への貸付金に対する貸倒引当金の計上等により、多額の特別損失を計上することなり、中間純利益は大幅な純損失となりました。